「善い社会」イメージの多様性とその規定因

赤川学（東京大学）

1 研究の目的

かつてロバート・ベラーが『心の習慣』(Bellah 1985=1991)で、島薗進・宮島喬らが『現代日本人の生のゆくえ』(宮島・島薗 2003)で探求した「善い社会」のイメージを、2015 年に私たちが行った 38 名に対する生活史インタビューのデータをもとに再度、探求する。この際、KJ 法と QCA の力を借りる。

2 研究の方法

「善い社会」の多様なイメージを KJ 法の要領で類型化し、関連づける。道徳心理学に依拠して、「善い社会」のイメージを「リベラル／保守」に分類する。質的比較分析(Qualitative Comparative Analysis)を用いて、「善い社会」イメージの規定因を求める。

3 結果

IdeaFragment を用いて、34 人の回答を断片化してカード化し、その関係を 11 のグループに分類した。さらに「リベラルな道徳／保守固有の道徳」（Haidt 2012=2014）に分類・配置した。

次いで「善い社会」のイメージが語られるときに想起される要素として、地域社会、国政（国家・政治）、組織、宗教の 4 つを取り上げ、これらが「保守的／リベラル」な「善い社会」のイメージとどう関連するかをクリスプ QCA によって解析した。具体的には fsQCA を用いて、データ行列から完備真理表を作成し、論理簡単化の手続きに基づいて最簡解を導出した。解の整合性を示す粗整合率としては 0.5 以上を基準にした。

その結果、「保守」を規定する最簡解は「地域社会に言及かつ組織に非言及」または「国政・宗教に言及かつ組織に非言及」であり、「リベラル」を規定する最簡解は「組織に非言及」または「地域社会に非言及」または「国政に言及」であった。

4 結論

地域社会、国政、宗教への言及が保守的な「善い社会」のイメージを、組織や地域社会への非言及がリベラルな「善い社会」のイメージを生み出すという知見は、道徳心理学ともある程度、整合する。ただし「保守／リベラル」に該当しない「善い社会」のイメージも存在するので（仮に「個と全体の調和」となづける）、追加的分析が必要である。

5 文献

Bellah, R. N. et al. 1985. *Habits of the Heart: Individualism and Commitment in American Life*, University of California. =1991. 島薗進・中村圭志訳『心の習慣』みすず書房.

Haidt, Jonathan 2012. *The Righteous Mind: Why Good People Are Divided by Politics and Religion*, Vintage. =高橋洋訳. 2014.『社会はなぜ左と右にわかれるのか』紀伊國屋書店.

宮島喬・島薗進（編）. 2003. 『現代日本人の生のゆくえ』藤原書店.

田村正紀. 2015. 『経営事例の質的比較分析』白桃書房.